

肢蹄調査について

将来、最大限のパフォーマンスを引き出すためには、子馬からの成長を注意深く観察し、タイミング良く肢軸の変化や過屈曲あるいは過伸展を矯正することが肝要です。肢軸異常は馬の価値を下げるだけでなく、運動器障害の一要因となり、競走能力に影響を及ぼす可能性は否定できません。このことから、矯正できる時期に肢軸異常を発見し、これを直しておくことはアスリートである競走馬にとって意味があります。肢軸異常には、肢軸の破折、捻転、過屈曲や過伸展およびオフセットニーと呼ばれる腕節構成骨の異常などがありますが、これらの発生を監視し、管理することが最初の一步となります。

本研修センターでは、2008年から「子馬の肢

蹄調査」を行っているので、その概要を紹介いたします。

生産地フットケアの技術向上を図ることを目標に、子馬の肢蹄異常とその装削蹄療法の実態把握を主眼とした調査を通じて、それらに対する的確な判断や矯正技術および予防体制の構築に資することが目的です。まず、肢蹄判定基準の内訳は肢勢、歩様、繋軸角度や蹄および球節の状態等の39項目について、下記の写真に示すとおり、基本的には3段階評価としました。子馬の四肢状況を把握するため、定期的に肢蹄等の検査や聞き取り調査を行い、子馬に施された装削蹄療法の効果を検討しています。対象は2008年5牧場72頭(延929頭)、2009年は5牧場84頭(延892頭)を対象に行い、2010年は4牧場について調査を始めています。

X脚評価の1例

X脚は前肢において、腕節が左右接近し、それ以下は広く踏む肢勢で、グレード1は前腕骨軸と管骨軸が10度以内、グレード2は10～20度、グレード3は20度以上と言うように通常は3段階(クラブフットは4段階)の判定基準を策定しています。しかしながら、実際の現場において、分度器での計測は難しいことから、当初は、撮影した写真を基に角度を計測し、統一した評価ができるよ

う目線合わせの訓練から始めました。また、人間でも駐立時(立っている時)は、気を付けの姿勢では窮屈なため、楽な休めの姿勢を取ったりします。馬でも同じです。駐立時は、本来の肢勢よりも広く踏みたがったりするものです。X脚のような前望の肢勢(前方からの見た前肢の肢勢)や後望の肢勢(後方から見た後肢の肢勢)を評価する場合は、歩行を重視し、地面に到着した時を評価します。つまり歩様重視なのです。

グレード1 = 軽度



グレード2 = 中程度



グレード3 = 重度

